

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	大嶋 満須美	職名	教授	学位	修士 (健康福祉学) 山口県立大学
----	--------	----	----	----	-------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
慢性期看護 看護管理	慢性期、受容過程、家族 組織、人材育成

研 究 課 題
慢性的疾患を抱えた患者・家族の疾病の受容と看護

担 当 授 業 科 目
成人看護学概論 (前期) 成人・老年看護学演習 (前期) 緩和・終末期看護 (前期) 保健福祉学入門 (前期) 成人慢性期看護方法論 (後期) 成人慢性期看護学実習 (通年) 看護総合実習 (通年) 看護総合演習 (通年) 看護研究演習 (後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 成人看護学概論 】</p> <p>ライフサイクルの中で成人期の位置づけを明確化し、看護の対象を地域社会で暮らす生活者として健康の側面から理解できるように統計資料を用いて教授した。また、学生の成長発達と関連づけながら授業をすすめた。学生の主体性や共同学習の観点からグループワークや発表を交え授業を構成した。毎回、学生の気づきや感想に対して、内容のフィードバックに努めた。</p>
<p>授業科目名【 緩和・終末期看護 】</p> <p>がん医療の進歩は飛躍的なものがあり、患者の治療や環境については最適とする個別化医療も進んでいる。そして、それに伴い看護者の役割拡大も求められている。「がん」の罹患による健康障害や、患者・家族が治療過程をどのように歩んでいるのか、また「緩和」を対象とする考え方の広がりや終末期のありようについて教授した。「がん」や「緩和」は、看護者の健康観や人間観そして死と向き合うことの「死生観」を育むと重要な機会として捉え、人々の尊厳と QOL の視点を持ち、看護者がかかわることの意義について教授した。</p>
<p>授業科目名【 成人慢性期看護方法論 】</p> <p>既習の知識や、基礎看護学実習、成人看護学概論を基盤に、系統別看護として健康障害とアセスメントの視点について解説し、形態機能や疾患の理解に結び付けながら、対象への看護について教授した。学生の既習の知識が看護実践に応用できるよう、毎回学生の反応を確認し次回に繋げた。</p>
<p>授業科目名【 成人・老年看護学演習 】</p> <p>成人・老年看護学の臨地実習に向けた学内演習として看護実践の基盤となる看護過程の思考を深め、看護実践能力を育成するため模擬患者による課題演習と基本とする看護技術が安全にできるように 30 コマを展開した。学生の進行状況を確認しながら解説を行い、グループワークと個人ワークを組み合わせ、個別にも配慮し領域全員で関わった。演習終了後、教員間で、進捗状況や方向性について情報共有を行い確認をするとともに、課題や到達度について協議した。</p>

<p>授業科目名【 成人慢性期看護学実習 】</p> <p>学生の受け持ち事例を中心に、慢性疾患の病態理解と看護の方向性について学生の思考を確認しながら担当教員と指導した。指導においては臨床指導者との連携を図り、アセスメントの視点を重要視し看護過程の展開が出来ること目標とした。また慢性疾患の自己管理や継続看護の重要性についても機会をとらえ伝えた。学びの共有と場としてカンファレンスへの参加を通じ看護実践について助言を行った。実習終了後は個別面接を行い、自己の学習課題の明確化を図った。また、そのことを教員間で確認した。</p>		
<p>授業科目名【 看護総合実習： 成人慢性期・終末期 】</p> <p>看護職への将来展望を視野に入れ、学生の主体性と看護の洞察が深まることを意図し、臨地の指導者と学生が直接調整を図り、学生の課題達成を支援し、調整を行いながら実習展開を行った。実習計画の段階では学生自身のテーマと実習展開の具体的方法の決定に時間をかけ、自らが取り組む実習内容の確認を行った。また、社会に出る前の学生として複数の事例を体験し時間管理や多職種による連携、看護管理についても組み入れた。</p>		
<p>授業科目名【 看護総合演習 】</p> <p>看護総合実習前後の演習として位置づけられ、学生が取り組もうとしている課題に向き合い、関心のあるテーマや自己の課題について文献検索を踏まえ、主体的に取り組めるよう個別に関わった。学生の言葉にある背景やそれぞれの現象を概念化し、学生とプロセスを共有する中で看護観や死生観が深まるよう助言した。看護に対する洞察は学生自身の専門職としての自立の一步として捉え、新たな視点について学びを共有するためグループメンバーによる学びの機会を設けた。</p>		
<p>授業科目名【 保健福祉学入門 】</p> <p>履修学生は学部3学科(看護・福祉・栄養)の1年生である。入門編として保健・医療・福祉の専門性と多職種連携の意義を理解し、社会の期待に応えるための課題への認識を深め、自己の専門性との関連を学修できるよう各学科で協議し、構成されている。合同講義を通じ、他領域を知り、理解することにより、より広く現象を捉えることができること、また毎回ミニレポートの提出を行い、「他職種」と自身の専門性における課題の明確化を図った。</p>		
<p>授業科目名【 看護研究演習 】</p> <p>既習の知識・技術・理論および臨地実習の経験をもとに自ら看護に関する研究テーマを設定する。また文献検討をはじめ一連の研究活動の基本を学ぶ選択科目である。本年度ゼミには選択履修者はいなかった。</p>		
<p>学 会 に お け る 活 動</p>		
<p>所属学会等の名称</p>	<p>役職名等 (任期)</p>	<p>加入時期</p>
<p>日本看護協会</p> <p>日本家族看護学会</p>		<p>1975年～ 現在</p> <p>1997年～ 現在</p>

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
一般財団法人 佐波共済会	評議員	2017年5月～ 現在
山口県立大学	非常勤講師	2014年4月～ 現在
福岡県看護協会	地区支部 施設会員代表者	2018年4月～ 現在
日本私立看護系大学協議会	施設代表者	2018年4月～ 現在
日本看護系大学協議会	施設代表者	2018年4月～ 現在

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

- ・看護学科 学科長 (2018年4月～ 現在)
運営会議、入学試験会議、点検評価改善会議、教授会、学生総合支援室会議の構成員
学科会議議長
学科運営・人事にかかわること
- ・看護キャリア支援センター長 (2018年4月～ 現在)
認定看護管理者教育課程 講師
ファーストレベル講師 (2019年6月29日)
認定教育課程検討委員長 (2018年4月～現在)
認定教育課程運営委員長 (2018年4月～現在)
- ・高大連携講座 (2019年11月12日) 講師